

適切な傷病名コーディングの推進について（案）

I 「DPC/PDPS 傷病名コーディングテキスト」について

1. 概要

- 平成 25 年 7 月 26 日の DPC 評価分科会において、厚生労働科学研究班（伏見班）が作成した「DPC/PDPS 傷病名コーディングガイド（Ver. 1.0）」が報告された。
- その後、平成 26 年度診療報酬改定以降の活用に向けて、DPC 評価分科会の意見、平成 24 年度特別調査（アンケート調査、ヒアリング調査）の結果、審査支払機関の意見等を踏まえつつ、別添の通り見直しをおこなった。

2. 修正を行った主な点

[名称]

「コーディングガイド」→「コーディングテキスト」

[追加した主な内容]

- 副傷病名の適切な記載について
- なぜ適切なコーディングが必要かについて
- 適切なコーディングのために望ましいと考えられる医療機関の体制
- MDC・上 6 桁コード毎の留意点一覧表 等

3. 対応案

- DPC/PDPS 傷病名コーディングテキスト（以下、「コーディングテキスト」という。）は、今後も引き続き必要な見直しを行った上で、次回診療報酬改定（平成 26 年度）以降、各医療機関が年 2 回実施することとされている「適切なコーディングに関する委員会」における参考資料として活用することとしてはどうか。
- 今後、コーディングテキストの見直しのためのワーキンググループを設置し、MDC 毎 DPC 検討ワーキンググループにおける検討内容や全国の医療機関等からの要望等も踏まえて、今後当該ワーキンググループで引き続き見直し作業を行うこととしてはどうか。
- 心不全・呼吸不全等の傷病名の複数の傷病を持った高齢者のコーディングルールや小児のコーディングルール、R コード（症状・徴候等で診断名を明確に表さないコード）の取り扱い等については、DPC 評価分科会において今後引き続き中長期的に検討することとしてはどうか。

Ⅱ レセプトの記載要領について

1. 概要

- 「130100 播種性血管内凝固症候群」等、いわゆるアップコーディング（より高い診療報酬を得るために意図的に傷病名コーディングの操作を行うこと）の事例が存在するのではないかと指摘されている診断群分類については、何らかの対応が必要があると考えられる。

2. 対応案

- 例えば、「130100 播種性血管内凝固症候群」によって請求する際に、診断の明確な根拠について記載されたもの等をレセプトに添付することについてどのように考えるか。